200401402A

厚生労働科学研究費補助金

厚生労働科学特別研究事業

臨床研修必修化を踏まえた
公衆衛生医師の確保方策の在り方に関する研究

(H16-特別-043)

平成１６年度　総括研究報告書

主任研究者　中村桂子（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）

平成１７（２００５）年　３月

目　次

Ⅰ．総括研究報告書
臨床研修必修化を踏まえた公衆衛生医師の確保方策の在り方に関する研究 ---- 1
中村桂子
(資料)　若手公衆衛生医師アンケート　調査票
(資料)　若手公衆衛生医師アンケート中間結果
(資料)　卒後臨床研修「地域保健・医療」アンケート　回答票
(単独型・管理型臨床研修病院用)
(資料)　卒後臨床研修「地域保健・医療」プログラム（単独型・管理型臨床研修病院）調査結果
(資料)　単独型・管理型臨床研修病院における「地域保健・医療」プログラムの特色ならびに重視点と課題
(資料)　卒後臨床研修「地域保健・医療」プログラム（保健所）調査結果
(資料)　保健所における「地域保健・医療」プログラムの特色ならびに重視点と課題

Ⅱ．分担研究報告書
1．地域保健・医療研修プログラムの実際と問題点 ----------
大井田隆　原野悟
(資料)
2．行政型臨床研修モデルプログラム --------
曽根智史　高野健人
3．地域医療型臨床研修モデルプログラム ----------
河原和夫

Ⅲ．研究成果の刊行に関する一覧表 ----------

Ⅳ．研究成果の刊行物・別刷
(卒後臨床研修「地域保健・医療」モデルプログラム事例集) ----------

厚生科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
総括研究報告書

臨床研修必修化を踏まえた公衆衛生医師の確保方策の在り方に関する研究

主任研究者　　中村桂子（東京医科歯科大学助教授）

研究要旨　本研究は平成１６年度の医師臨床研修必修化を踏まえ、公衆衛生に深い理解を持つ若手臨床医の育成を視野に入つつ、公衆衛生（行政）関係分野に従事する医師（以下、公衆衛生医師という）の確保対策の在り方を研究し、公衆衛生（行政）関係分野に携わる人材の確保・育成に資するモデル案を作成し提示したものである。① 既に社会医学系の職務（中央官庁、地方公共団体、大学等）に従事している若手公衆衛生医師を対象とし、現在の職務を選択するに至った動機等について調査を実施した。公衆衛生医師のキャリア形成に役立つ教育、研修、情報伝達について分析した。医学部卒業後のキャリアでは、臨床医学を経て行政分野に進んだ者が最も多く、臨床医学を経て社会医学教育研究、卒業後すぐに行政、卒業後すぐに教育研究が続いていた。卒前教育における社会医学教育の充実、公衆衛生医師との交流の機会を確保するとともに、臨床医となった後にも公衆衛生医師との情報交換が可能な環境があることが、公衆衛生医師のキャリア選択の機会を拡大すると考えられた。② 全国研修指定病院および保健所を対象に、「地域保健・医療」研修プログラムの実施計画に関する資料提供を依頼した。ヒアリング調査をあわせて実施した。研修プログラムの特色、重視点、問題点を整理し、公衆衛生医師の確保に効果的な卒後臨床研修「地域保健」のモデルプログラム開発を試みた。計画されている「地域保健・医療」のプログラムのプレアセスメントを行った結果、研修医が知識技能ともに多くを獲得できると期待されるものがある一方、見学のみに終わってしまい研修目的が十分達成されないと予想されるものが存在した。公衆衛生医師確保の観点から、行政型、地域医療型、地域保健型の３つのモデルプログラムを提示した。③ ①②の結果をふまえ、公衆衛生医師の確保に効果的な臨床医を対象とする啓発セミナーのモデルプログラム及び使用教材の検討を行った。臨床医を対象とした定期的な啓発セミナーは、関心を持つ医師が様々な公衆衛生医師と交流をはかる機会を提供し、公衆衛生医師確保に有用と考えられた。

卒前医学教育における社会医学教育の充実と、医学生および臨床医師を対象とする公衆衛生医師との交流の機会を拡大することが、公衆衛生医師確保に有用である。社会医学に関心のある研修医にとって有意義な「地域保健」臨床研修のモデルプログラムを示した。

〔分担研究者氏名・所属施設及び所属機関における職名〕

河原　和夫・東京医科歯科大学教授
曽根　智史・国立保健医療科学院部長
松田　晋哉・産業医科大学教授
大井田　隆・日本大学医学部教授
渡辺　雅史・東京医科歯科大学助手

A．研究目的

平成16年度から卒後臨床研修必修化が導入されたが、卒後臨床研修は若手医師の臨床能力向上に主眼を置いたものである。そのため、研修修了後の進路として臨床医指向が誘導され、公衆衛生（行政）分野を選択する医師が減少するという問題が各方面から指摘されており、その対応が喫緊の課題となっている。同時に、今後、臨床医として活躍する若手医師についても、今回の卒後臨床研修必修化の趣旨を踏まえれば、卒後臨床研修に組み込まれている「地域保健」研修の中で公衆衛生の重要性及び医師が果たす役割について分かりやすく学べるようモデルプログラムを作成・提示することにより、公衆衛生に深い理解を持つ若手臨床医の育成が極めて重要とされているが、平成１６年１０月末の時点でも具体的な研修プログラム策定は進捗していないとされている。

本来、「地域保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応」出来る人材育成を目的に導入された「地域保健」研修プログラムであり、医師として必要な地域保健、公衆衛生活動に対する基本的な態度、考え方を身につけることができる絶好の機会であるにもかかわらず、研修医の中で「地域保健」及び「公衆衛生」に対する関心は低く、また、我が国では、保健所及び公衆衛生医師の人材不足が指摘されて久しく、特に若手の人材不足の深刻さが浮き彫りとなっている。このような状況を踏まえ、今後の公衆衛生専門家を確保する観点から、研修が必修化された最初の研修医が研修を修了する平成１７年度までに具体的な対応案を策定する必要がある。（対象は卒後臨床研修中の若手医師。）この研究により、より効果的な公衆衛生医師確保に資する臨床研修が実施されるとともに、以前より要望の高かった啓発セミナーに使用可能な教材が開発されることにより医師啓発セミナー等の開催が推進され、公衆衛生医師の確保に大きく貢献することが期待される。

B．研究方法

① 若手公衆衛生医師キャリア選択動機調査

既に社会医学系の職務（中央官庁、地方公共団体、大学等）に従事している若手公衆衛生医師を対象とし、現在の職務を選択するに至った動機等について調査を実施した。公衆衛生医師のキャリア形成に役立つ教育、研修、情報伝達について分析した。調査は質問紙法（電子メール／ファクシミリ／郵送による返信）により行った。対象者は、中央官庁、地方公共団体（公衆衛生行政）、大学（衛生学・公衆衛生学分野）の職務にある医師（医学部卒業後１０年程度までの若手公衆衛生医師）とした。以下の項目について調査した。年齢、性別、卒業年／医学部卒業後の職務（大学院在学を含む）の経緯／医学部学部教育（カリキュラム内、カリキュラム外）、臨床研修、大学院教育、社会医学系研修等、社会医学系業務における経験と、現在の職務の選択との関連について（社会医学系職務の選択およびその遂行にあたり役立った経験について）／社会医学系職務を選択するにいたった動機について／社会医学系職務の遂行にあたり、特に役立った教育や研修の方法と内容について（回答者自身が受けた教育・研修について）／社会医学系職務に従事する医師の育成

に効果的と思われる研修プログラムついて／社会医学系職務に従事する医師の確保に役立つ方策について／その他。

② 「地域保健・医療」臨床研修モデルプログラムの開発

医師臨床研修単独型病院・管理型病院病院長および保健所長を対象に、次の項目について調査を実施した。各機関が平成１７年度に実施する卒後臨床研修「地域保健」プログラムの概要／上記プログラム作成にあたり重視した点／上記プログラムの特色について特筆すべき点（当該機関および地域の特長を活かしたプログラムについて）／上記プログラムの実施にあたっての留意点（十分な研修を実施するための留意点）／その他。以上の項目につき、ヒアリング調査をあわせて実施した。研修プログラムの特色、重視点、問題点を整理し、公衆衛生医師の確保に効果的な卒後臨床研修「地域保健」のモデルプログラム開発を試みた。

③ 公衆衛生医師啓発セミナーのモデルプログラムの検討

①②の結果をふまえ、公衆衛生医師の確保に効果的な臨床医を対象とする啓発セミナーのモデルプログラム及び使用教材の検討を行った。

C，D．研究結果と考察

① 若手公衆衛生医師キャリア選択動機調査

医学部卒業後のキャリアでは、臨床医学を経て行政分野に進んだ者が最も多く、臨床医学を経て社会医学教育研究、卒業後すぐに行政、卒業後すぐに教育研究が続いていた。公衆衛生医師のキャリア選択に複数のパターンがあり、卒前教育における社会医学教育の充実、公衆衛生医師との交流の機会を確保するとともに、臨床医となった後にも公衆衛生医師との情報交換が可能な環境があることが、公衆衛生医師のキャリア選択の機会を拡大すると考えられた。

研究結果は今後の公衆衛生医師確保に必要な情報提供や医学生や臨床医と公衆衛生医師の交流の機会の提供などの方策整備の基礎資料として活用できると考えられる。

② 「地域保健・医療」臨床研修モデルプログラムの開発

計画されている「地域保健・医療」のプログラムについて、衛生学公衆衛生学教育協議会卒後臨床研修検討委員会作成の評価項目に基づきプレアセスメントを行った。その結果、研修医が知識技能ともに多くを獲得できると期待されるものがある一方、見学のみに終わってしまい研修目的が十分達成されないと予想されるものが存在した。

公衆衛生医師確保の観点から、行政型、地域医療型、地域保健型の３つのモデルプログラムを提示した。行政型は、広く厚生労働行政の研修を行うもので、地域保健・医療の内、特に調査、企画、政策立案などの項目に重点をおくものである。地域医療型は、研修病院の地域特性を活かし、地域医療、保健、福祉の連携に重点をおくものである。地域保健型は、保健所、都道府県関連機関、市町村関連機関との連携の上に、地方公衆衛生行政の機能と役割、医師の役割について重点をおくものである。

「地域保健・医療」臨床研修モデルプログラムは、全国の研修指定病院における「地域保健・医療」プログラムおよび保健所などにおける研修プログラムの企画立案に活用される。研究の成果として複数例示したプログラムを参考に、病院や保健所が、各機関や地域の特性と研修医の希望を考慮し、充実した「地域保健・医療」プログラムを実施することに役立つと考えられる。社会医学に関心をもつ研修医の研修ニーズに対応できるプログラムとして開発したモデルプログラムは、実際に研修医が参加可能な臨床研修プログラムとして実現することにより、公衆衛生医師確保に資すると考えられた。

③　公衆衛生医師啓発セミナーのモデルプログラムの検討

臨床医を対象とした定期的な啓発セミナーは、関心を持つ医師が様々な公衆衛生医師と交流をはかる機会を提供し、公衆衛生医師確保に有用と考えられた。

E．結論

本研究は平成１６年度の医師臨床研修必修化を踏まえ、公衆衛生に深い理解を持つ若手臨床医の育成を視野に入つつ、公衆衛生（行政）関係分野に従事する医師（以下、公衆衛生医師という）の確保対策の在り方を研究し、公衆衛生（行政）関係分野に携わる人材の確保・育成に資するモデル案を作成し提示したものである。

①　既に社会医学系の職務（中央官庁、地方公共団体、大学等）に従事している若手公衆衛生医師を対象とし、現在の職務を選択するに至った動機等について調査を実施した。公衆衛生医師のキャリア形成に役立つ教育、研修、情報伝達について分析した。医学部卒業後のキャリアでは、臨床医学を経て行政分野に進んだ者が最も多く、臨床医学を経て社会医学教育研究、卒業後すぐに行政、卒業後すぐに教育研究が続いていた。卒前教育における社会医学教育の充実、公衆衛生医師との交流の機会を確保するとともに、臨床医となった後にも公衆衛生医師との情報交換が可能な環境があることが、公衆衛生医師のキャリア選択の機会を拡大すると考えられた。②　全国研修指定病院および保健所を対象に、「地域保健・医療」研修プログラムの実施計画に関する資料提供を依頼した。ヒアリング調査をあわせて実施した。研修プログラムの特色、重視点、問題点を整理し、公衆衛生医師の確保に効果的な卒後臨床研修「地域保健」のモデルプログラム開発を試みた。計画されている「地域保健・医療」のプログラムのプレアセスメントを行った結果、研修医が知識技能ともに多くを獲得できると期待されるものがある一方、見学のみに終わってしまい研修目的が十分達成されないと予想されるものが存在した。公衆衛生医師確保の観点から、行政型、地域医療型、地域保健型の３つのモデルプログラムを提示した。③　①②の結果をふまえ、公衆衛生医師の確保に効果的な臨床医を対象とする啓発セミナーのモデルプログラム及び使用教材の検討を行った。臨床医を対象とした定期的な啓発セミナーは、関心を持つ医師が様々な公衆衛生医師と交流をはかる機会を提供し、公衆衛生医師確保に有用と考えられた。

卒前医学教育における社会医学教育の充実と、医学生および臨床医師を対象とする公衆衛生医師との交流の機会を拡大することが、公衆衛生医師確保に有用である。社会医学に関心のある研修医にとって有意義な「地域保健」臨床研修のモデルプログラムを示した。

F．健康危険情報

該当なし

G．研究発表

卒後臨床研修「地域保健・医療」モデルプログラム事例集

H．知的財産権の出願・登録状況

該当なし

B票

平成16年度厚生労働科学特別研究事業
「臨床研修必修化を踏まえた公衆衛生医師の確保方策のあり方に関する研究」班

若手公衆衛生医師アンケート

回答は、次のURLから返信いただけます。
3月28日までにご返信をお願いいたします。
URL：http://www.publichealthdoctors.jp　ユーザー名 health　パスワード doctors
なおファクシミリ、郵送でもご返信いただけます。ファクシミリ：03-3818-7176

住所：〒101-0062　東京都千代田区神田駿河台2-3-21
東京医科歯科大学臨床研究棟　国際保健医療協力学研究室　アンケート係
お問い合わせ　電話：03-5283-5868　電子メール：klith@tmd.ac.jp
（↑数字の1です）

本調査では「若手公衆衛生医師」を、医学部卒業後おおむね10年程度までで、国、地方公共団体、医育機関、その他の施設において厚生労働行政や地域の衛生行政業務、社会医学教育研究業務に従事する医師、および大学院や研修機関で社会医学の教育・研修を受けている医師まで幅広く含むものとします。

本調査の依頼状を受け取られた方は、上記の定義に若干あてはまらなくとも、該当箇所に記入し返信いただけますようお願いいたします。

該当する□に✓を、□の中には名称または数字を、記入してください

このアンケートに初めて回答する□　すでに別途回答済み□
↳該当する方は以下の記入は不要ですが、この欄にのみ✓をつけ必ず返送下さい。

1 年齢　□歳

2 性別　（　2－1□男性　2－2□女性　）

3 医学部（学部）卒業年　平成□□年（右ツメで年を記入して下さい）

4 現在の職場の所在地　（都道府県名）□

5 現在の勤務先　（兼務の場合は、両方に✓を記入してください）

5－1□中央官庁（公衆衛生行政）　5－2□地方公共団体（公衆衛生行政）
5－3□大学･大学院（社会医学系）　5－4□保健所
5－5□保健センター　5－6□精神保健センター
5－7□研究機関（公的）　5－8□研究機関（民間）
5－9□その他（　　）

6 医学部卒業後のキャリアを、臨床医師（研修医を含む）、社会医学系以外の基礎医学、公衆衛生医師（行政、教育、研究）と分けた場合、あなたは、「公衆衛生医師」の職務（社会医学大学院生を含む）に就いて、何年目になりますか？

6－1□1年　6－2□2年　6－3□3年　6－4□4年　6－5□5年
6－6□6年　6－7□7年　6－8□8年　6－9□9年　6－10□10年以上

7 医学部卒業後の職務の流れをお答えください

7－1□臨床に従事　→　公衆衛生医師（行政）
7－2□臨床に従事　→　公衆衛生医師（教育・研究）
7－3□社会医学系以外の研究に従事（大学院・研究機関等）→　公衆衛生医師（行政）
7－4□社会医学系以外の研究に従事（大学院・研究機関等）→　公衆衛生医師（教育・研究）
7－5□公衆衛生医師（行政）
7－6□公衆衛生医師（教育・研究）
7－7□公衆衛生医師（教育・研究）→　公衆衛生医師（行政）
7－8□公衆衛生医師（行政）→　公衆衛生医師（教育・研究）
7－9□その他（具体的に：　　）

8 公衆衛生医師（行政、教育、研究）の職務に興味を持ち始めたのはいつごろですか？

8－1□医学部入学前　8－2□医学部学生の時期
8－3□研修医の時期　8－4□研修医以降の臨床医の時期
8－5□大学院　8－6□その他（　　）

9 公衆衛生医師の職務について考えるきっかけになったことについてお答えください（当てはまるものすべてに✓を記入してください）

9－1□以前から、社会医学や公衆衛生の分野の事柄にばくぜんと関心があった
9－2□医学部学部生時代の講義・学内実習（社会医学の授業に限らない）
9－3□医学部学部生時代の社会医学学外実習（保健所、その他の公衆衛生の現場）
9－4□医学部学部生時代の課外活動（サークル活動やボランティア活動を含む）
9－5□医学部学部生時代に参加したセミナーや講演会（大学のカリキュラム以外）
（具体的に：　　）
9－6□医学部学部生時代の社会医学系の研究室訪問
9－7□医学部学部生時代に参加した公衆衛生行政などの現場でのインターンや研修
（具体的に：　　）
9－8□医学部学部生時代の、先輩や教員、公衆衛生医師との交流
9－9□医学部学部生時代に見聞きした公衆衛生医師の活躍の様子（テレビ、雑誌、他）
（具体的に：　　）

9－10□医学部学部生時代に見聞きした医局、研究室情報など
9－11□医学部学部生時代に見聞きした医系技官、公衆衛生医師募集情報
9－12□臨床医となってから（研修医を含む）の病院・診療所での診療活動
9－13□臨床医となってから（研修医を含む）の保健所、保健センターなどでの経験
9－14□臨床医となってから（研修医を含む）の保健施設、福祉施設などでの経験
9－15□臨床医となってから（研修医を含む）の産業保健の現場での経験
9－16□臨床医となってから（研修医を含む）参加したセミナー、講演会、講習会など
（具体的に：　　）
9－17□臨床医となってから（研修医を含む）参加した公衆衛生行政のインターンや研修
（具体的に：　　）
9－18□臨床医となってから（研修医を含む）の先輩や上司、公衆衛生医師との交流
9－19□臨床医となってから（研修医を含む）見聞きした公衆衛生医師の活躍の様子
（テレビ、雑誌、他）（具体的に：　　）
9－20□臨床医となってから（研修医を含む）見聞きした医局、研究室情報など
9－21□臨床医となってから（研修医を含む）見聞きした医系技官、公衆衛生医師募集情報
9－22□その他（具体的に：　　）

10 公衆衛生医師（行政、教育、研究）の職務につくことを決心したのはいつごろですか？

10－1□医学部入学前　　10－2□医学部学生の時期
10－3□研修医の時期　　10－4□臨床研修後の臨床医の時期
10－5□大学院　　10－6□その他（　　）

11 公衆衛生医師の職務につく決心を固める過程で助言や励ましを受けるなど、よりどころとなった人や情報源がありますか？（当てはまるものすべてに✓を記入してください）

11－1□医学部の同窓、同門などの先輩や友人
11－2□セミナーなどで知り合った同年代の友人
11－3□臨床に従事しているときの、職場の先輩や上司、同僚（臨床医）
11－4□大学・大学院の社会医学系研究室の教員（教授、助教授など）、大学院生
11－5□国や地方公共団体の衛生行政、保健所業務に携わる公衆衛生医師
11－6□公衆衛生医師として勤務予定（入学予定）の職場の医師など
11－7□医師以外の公衆衛生分野の人
11－8□医療、公衆衛生以外の分野の人
11－9□書物、雑誌、新聞、テレビなどから得た人や仕事に関する情報
11－10□メーリングリスト、ブログ、その他インターネット上の情報
11－11□その他（具体的に：　　）

12 公衆衛生医師の職務につく決心をした理由として当てはまるものすべてに✓を記入してください

12－1□人からアドバイスを受けた
12－2□公衆衛生医師にあこがれていた
12－3□公衆衛生（社会医学）の仕事に興味をもった
12－4□自分に適した職務であると思った
12－5□やりがいのある仕事だと思った
12－6□勤務条件が自分のライフスタイルにあっていると思った
12－7□公衆衛生に関連する奨学金をもらっていた
12－8□その他（具体的に：　　）

13 卒後臨床研修が必修化されました。研修医にとって、「地域保健」の臨床研修を魅力ある有意義なものとするにはどうしたらよいか、ご意見をお聞かせください

14 あなたは公衆衛生医師の仕事のどのような点に魅力を感じていますか？

15 あなたは公衆衛生医師の職務に就いたことに満足していますか？

15－1□とても満足　　15－2□満足
15－3□やや不満　　15－4□不満

16 あなたに続いて、より多くの若い人材に公衆衛生医師の職務に就いてもらうために必要と思われることについて、自由にご記入ください

―― ご協力ありがとうございました ――

若手公衆衛生医師アンケート中間結果（２００５．４．５）

１．依頼先：

省庁関係、国の関連機関　（４１）
都道府県、政令指定市　（６０）
全国保健所　（５６６）
都道府県精神保健センター　（６１）
健康科学センター　（１４）
全国衛生学公衆衛生学教育協議会会員　（２０６）
合計　９４８団体

２．依頼方法：

団体に所属する若手公衆衛生医師の人数調査
→　若手公衆衛生医師より、インターネットなどで回答

３．調査実施期間：２００５年３月２２日～３１日

４．対象若手公衆衛生医師数（A票による対象者数）：１５８人

５．施設別公衆衛生医師の人数

公衆衛生医師数	施設数	%
0	278	68.1
1	84	20.6
2	28	6.9
3	8	2.0
4	2	0.5
5	3	0.7
6	1	0.2
7	1	0.2
8	1	0.2
9	2	0.5
合計	408	100.0

(B 票集計結果)

6．若手公衆衛生医師の回答

卒業年　(年)	人数	%
昭和	3	1.9
平成元～6	36	22.8
7	18	11.4
8	19	12.0
9	10	6.3
10	11	7.0
11	15	9.5
12	16	10.1
13	13	8.2
14	8	5.1
15	8	5.1
16	1	0.6
合計	158	100.0

7．現在の勤務先

勤務先	人数	%
中央官庁	17	9.7
地方公共団体	19	10.8
大学・大学院	51	29.0
保健所	52	29.5
保健センター	3	1.7
精神保健センター	12	6.8
研究機関（公的）	10	5.7
研究機関（民間）	1	0.6
その他	11	6.3

その他（順不同）

- 産業医
- 病院勤務(研修医)

8．医学部卒業後のキャリア

	人数	%
臨床→行政	77	47.5
臨床→社会医学教育研究	44	27.2
他の大学院→行政	1	0.6
他の大学院→教育研究	5	3.1
行政	10	6.2
教育研究	5	3.1
教育研究→行政	4	2.5
行政→教育研究	1	0.6
その他	15	9.3
計	162	100.0

その他（順不同）

- 社会医学大学院→公衛医師（教育・研究）
- 研修医→社会医学系大学院→公衆衛生医師
- 臨床→公衆衛生医師（研究）公衆衛生医師（行政）
- 臨床→公衆衛生大学院→公衆衛生医師
- 現在臨床もしています。
- 臨床→公衆衛生と臨床兼務
- 臨床→公衆（行政）→公衆（教育・研究）
- 臨床→産業医→公衆衛生（教育・研究）
- 臨床研修１年→行政４年→臨床５年→行政
- 臨床に従事→民間企業→公衆衛生医師（行政）
- 臨床研修と社会医学大学院を同時期に修了し、公衆衛生医師（教育・研究）に従事
- 臨床研修医(2 年間)⇒社会医学系大学院
- 臨床に従事→社会医学系大学院→公衆衛生医師（行政）→公衆衛生医師（教育・研究）
- 臨床に従事→基礎系研究→公衆衛生医師（研究）
- 臨床→基礎研究→臨床→基礎研究→公衆衛生医師（教育・研究）

9．公衆衛生医師の職務に興味を持ち始めた時期

	人数	%
医学部入学前	12	7.4
医学部学生の時期	82	50.6
研修医の時期	9	5.6
研修医以降の臨床の時期	42	25.9
大学院	9	5.6
その他	8	4.9
計	162	100.0

その他（順不同）

- 突然勝手に異動させられた。その為にいつごろということはない。
- 大学の医局人事での異動による。
- 現在もあまり興味がない
- 医学部入学以前に公務員経験あり
- 興味無し
- 特に興味はなかった
- 大学院以降の基礎研究時期

１０．公衆衛生医師の職務について考えるきっかけ

	人数	%
以前からばくぜんと	68	41.7
医学生時代　講義・学外実習	46	28.2
医学生時代　社会医学学外実習	31	19.0
医学生時代　課外活動	17	10.4
医学生時代　セミナー・講演会	9	5.5
医学生時代　社会医学研究室	26	16.0
医学生時代　インターン・研修	4	2.5
医学生時代　公衆衛生医師と交流	52	31.9
医学生時代　テレビ・雑誌	7	4.3
医学生時代　研究室情報	10	6.1
医学生時代　医系技官等募集情報	25	15.3
臨床医　病院・診療所	33	20.2
臨床医　保健所・保健センター	8	4.9
臨床医　保健施設・福祉施設	5	3.1
臨床医　産業保健	6	3.7
臨床医　セミナー・講演会	7	4.3
臨床医　インターン・研修	1	0.6
臨床医　公衆衛生医師と交流	31	19.0
臨床医　テレビ・雑誌	2	1.2
臨床医　研究室情報	8	4.9
臨床医　医系技官等募集情報	9	5.5
その他	18	11.0

その他（順不同）

- 学内のEBMセミナーに参加
- ＥＢＭワークショップ
- 留学中の臨床疫学のセミナー

１１．公衆衛生医師の職務につくことを決心した時期

	人数	%
医学部入学前	1	0.6
医学部学生の時期	56	34.4
研修医の時期	27	16.6
研修医以降の臨床の時期	54	33.1
大学院	14	8.6
その他	11	6.7
計	163	100.0

その他（順不同）

- きっかけはない。
- 父のススメ
- 大学の医局人事での異動により、やむなく勤務している。
- 将来ありそう
- 高校生の時に「微生物の狩人」を読んで公衆衛生れいめい期の医師へあこがれた。
- 臨床医時代、公衆衛生大学院に入学することになったこと。
- 県の人事により
- 産業医科大学卒業生なので
- 公衆衛生の大学院に入学したきっかけは漠然としていたが、その後興味を持った
- 経済学士を持っていたから
- 従事後
- 知人の医師が国政選挙に当選したこと
- 環境保全にも興味があった
- 臨床医になってから知った疾病に対する臨床の限界
- 実地疫学専門家養成コース（FETP）への参加
- 臨床研究など疫学に興味があった

１２．公衆衛生医師の職務につく決心を固める過程で助言や励ましを受けるなど、よりどころとなった人や情報源

	人数	(%)
医学部同窓の先輩・友人	63	38.7
セミナーなどで知り合った友人	3	1.8
臨床医	31	19.0
社会医学系教員・大学院生	71	43.6
衛生行政・保健所医師	42	25.8
公衆衛生の職場の医師	20	12.3
医師以外の公衆衛生分野の人	8	4.9
医療、公衆衛生以外の分野の人	7	4.3
書物、雑誌、新聞、テレビ	16	9.8
メーリングリスト、インターネット、他	9	5.5
その他	14	8.6

その他（順不同）

- 学生時代の公衆衛生学の、行政医師の特別講義
- 大学の医局の医局長より。
- 社会医学系以外の大学院の指導教授
- 上司からのアドバイス「保健所に入ったら仕事をするな、やっているふりをしろ」
- 医学部入学以前に公務員経験あり
- なし
- 家族
- 医師でもある知人の国会議員
- 親の承諾
- なし
- 自治医大卒業生なので進路は決まっていた
- 特になし
- 国の研究機関の上司

１３．公衆衛生医師の職務につく決心をした理由

	人数	(%)
人からのアドバイス	37	22.7
あこがれていた	7	4.3
興味をもった	102	62.6
自分に適していると思った	65	39.9
やりがいのある仕事だと思った	63	38.7
勤務条件があっている	65	39.9
奨学金	9	5.5
その他	20	12.3

その他（順不同）

- 突然に、勝手に異動させられた。
- 大学の医局人事異動により、やむなく。
- 医局人事
- 自分の研究内容を発展させることができると判断したため。
- 研究内容が公衆衛生に関連するものであった。
- 産業医科大学卒業生なので
- その当時の健康状態では臨床医は無理だと思った。
- 将来、ますます重要になる分野だと思った
- 地球環境問題等社会的な問題にも関心があった
- 自分は感染症専門医です。公衆衛生医という自覚はありません。
- 当時は待遇もさほど悪くなかった
- 医局の人事異動のため
- 大きく物事を動かせる仕事だと思った
- 臨床医の適性が無い。未知への興味。
- 決心はついていません。
- 上記に加えて自分は臨床医に向いてないと思った
- 生活のため収入が必要だったから
- 見てみたかった
- 自治医大卒業生なので進路は決まっていた
- 臨床研究など疫学に興味があった

１４．公衆衛生医師の職務についたことへの満足度

	人数	%
とても満足	34	22.2
満足	84	54.9
やや不満	28	18.3
不満	7	4.6
計	153	100.0

若手公衆衛生医師アンケート　比較（1）　経歴別

1．経歴別人数

	人数	%
臨床後	121	74.2
直接	20	12.3
その他	22	13.5
合計	163	100.0

2．卒業年

	臨床後		直接	
	人数	%	人数	%
昭和	3	2.6	0	0.0
平成元～6	21	17.9	6	31.6
7	11	9.4	3	15.8
8	14	12.0	3	15.8
9	10	8.5	0	0.0
10	10	8.5	0	0.0
11	14	12.0	0	0.0
12	12	10.3	2	10.5
13	9	7.7	3	15.8
14	7	6.0	0	0.0
15	6	5.1	1	5.3
16	0	0.0	1	5.3
合計	117	100.0	19	100.0

3．公衆衛生医師の職務に興味を持ち始めた時期

	臨床後		直接	
	人数	%	人数	%
医学部入学前	8	6.6	3	15.8
医学部学生の時期	51	42.1	16	84.2
研修医の時期	9	7.4	0	0.0
研修医以降の臨床の時期	38	31.4	0	0.0
大学院	9	7.4	0	0.0
その他	6	5.0	0	0.0
計	121	100.0	19	100.0